

南伊豆町

地形概況

青野川・差田川流域の南伊豆山地が広く開析が進み、谷底低地は幅広く発達し、弓ヶ浜の砂堆に閉塞された後背湿地もみられる。蛇石は火山で天神原は高原状地形となる。出入の多い海岸の湾奥には小堆積地がみられ、石廊崎には活断層が走る。

地質概況

火山角礫岩や凝灰質砂岩からなる白浜層群の山地が広く南部には噴火口をもつ南崎火山の噴出物が隆起海食台をおおい、西部には蛇石火山があり、輝石安山岩類の溶岩を流出した。また、断層系が発達して、石英安山岩の貫入岩体もみられる。

気象概況

県内では最も亜熱帯性の気候に近い。年平均気温は 16.3°C、8 月と 1 月の平均温度較差が 22.7°C と温暖である。年降水量 2,177mm(石廊崎)、降水は冬に少なく夏に多いが最大月降水量と最小月降水量の比は小さい。年平均湿度 72.4%、年平均日照時間 2,527 時間。

災害事例 地震

- 1978 年 1 月 14 日 (昭和 53 年) 伊豆大島近海地震 M=7.0
負傷者 1 人、住家一部破損 29 戸、文教施設 3 箇所、道路 3 箇所、砂防施設 1 箇所、水道 3 箇所、崖崩れ 2 箇所の被害を生じた。
- 1974 年 5 月 9 日 (昭和 49 年) 伊豆半島沖地震 M=6.9
被害は死者 30 人、行方不明 8 人、全壊 111 戸、半壊 191 戸、一部損壊 442 戸、山(崖)崩れ 46 箇所などである。中木地区の城畑山東斜面で発生した崖崩れで死者・行方不明 35 人を生じた。崩壊土量は約 10,000 立方メートル。その他沿岸の海食崖は殆ど到るところで崩壊を生じた。
- 1854 年 12 月 23 日 (安政元年) 安政東海地震 M=8.4
湊・下流・石廊崎・入間の各地で震度は 5~6 に達した。妻良では、家の瓦が落ちた。

災害事例 津波

- 1960 年 5 月 24 日 (昭和 35 年) チリ地震津波
南米、チリで発生した地震による津波。湊の海岸砂浜で津波の高さ 1.8m、長津呂港の舟上場で津波の高さ 0.7m、子浦の岸壁の上に潮が 60cm ほど上がった。津波の高さ 1.6m。
- 1944 年 12 月 7 日 (昭和 19 年) 東南海地震津波
津波の高さは、手石で約 1m、子浦で 1.5m 以上、妻良で 1.5m 以下であった。手石では青野川に津波が入り、舟が河口と湊橋の間をいったりきたりした。
- 1854 年 12 月 23 日 (安政元年) 安政東海地震津波
この津波の高さは、湊で 2.4~5m、下賀茂で 2m、小稲で 5m、下流で 4~6.4m、中木で 4.3m、入間で 13.2(16.5)m、妻良で 4.5~6.8m、子浦で 4.4~6.1m、伊浜で 4m となっている。また被害は、湊で老婆 1 人死亡し、中木では住宅 5 戸流亡、老婆 1

人死亡、妻良では 145 戸のうち約 100 戸浸水、5 戸流失・倒潰、子浦 140~150 戸のうち約 100 戸浸水、流失 6 戸との記録が残っている。

- 1707 年 10 月 28 日（宝永 4 年）宝永地震津波
湊で、早稲田の寺下まで潮入る、田尻より大山口道まで押しよせる、との記録があり、津波の高さは 5m 程度であった。
- 1703 年 12 月 31 日（元禄 16 年）元禄地震津波
吸光之下道を潮越し、早稲田、寺の下まで潮入る、青野川を手石港の舟などが押入った、などの記録から、津波の高さ 3m と推定されている。

災害事例 高潮

- 1979 年 10 月 19 日（昭和 54 年）20 号台風
床上浸水 2 戸、床下浸水 16 戸の被害があった。
- 1961 年 9 月 16 日（昭和 36 年）第 2 室戸(18 号)台風
床上浸水 12 戸、床下浸水 38 戸の被害を生じた。

災害事例 台風

- 1958 年 9 月 26 日（昭和 33 年）狩野川(22 号)台風
伊豆半島一帯で被害甚大。死者・行方不明 1,000 人以上。石廊崎での最大瞬間風速 45m/s、最大日雨量 174.6mm(26 日)、最大 1 時間日雨量 55.0mm(26 日)。